

モモせん孔細菌病に対する果実感受性

福島県果樹試験場病理昆虫部
平成13年度試験研究成績書

1 部門名

果樹－モモ－病害虫発生
分類コード: 04-02-22000000

2 担当者

菅野英二・佐々木正剛

3 要旨

モモ果実生育後期のモモせん孔細菌病に対する果実感受性を検討した。

- (1) 一般に、せん孔細菌病に対する果実感受性は6月頃までは高く、7月になると果実感受性は低下するといわれている。しかし、‘ゆうぞら’等の晩生種を中心に、収穫間近の果実に小型病斑が生じ、果実の商品価値が損なわれる場合があるが、その病斑は収穫間近に発生しており、7月以降にも感染しているように思われた。そこで、果実感受性が低下するといわれる7月にせん孔細菌病菌を果実に接種し、品種間の発病の有無を調べた。
- (2) 試験には‘あかつき’、‘川中島白桃’、‘ゆうぞら’を用いた。試験の結果、いずれの品種も高濃度菌液を接種すると‘あかつき’の7月26日接種区以外の試験区で発病が確認された。また、接種時期が遅くなれば発病程度が軽くなる傾向が認められた。
- (3) ‘あかつき’の7月26日接種区において発病が認められなかったのは、果実感受性が低下したためか、発病前の潜伏期間中に果実が収穫されたためと考えられた。
- (4) 以上のことから、モモせん孔細菌病は‘あかつき’の果実は7月中旬まで、‘川中島白桃’‘ゆうぞら’の果実は7月下旬まで感染することが明らかになり、7月の防除も重要になることが判明した。

4 その他の資料等

なし